

「青島温州」等高糖系温州の摘葉による優良な春母枝確保法

「青島温州」に対し、12月から2月にかけて、20～30cmの比較的長く太い春梢の先端1～2芽をせん除後、残った葉を摘葉すると、翌年、15cm程度の細くて優良な結果母枝を多数確保できる。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室（担当者：藤田賢輔）

研究のねらい

「青島温州」等高糖系温州は樹勢が強いため、発生した枝梢は太くて長いものが多く、着花も不安定であり、着果した果実は商品性の劣る大果になりやすい。一方、高品質果実を連年安定生産する篤農家の樹相は、比較的短い枝梢が発生している。

そこで、20～30cmの比較的長く太い春梢から、翌年、高品質果実を連年安定生産しやすい短い優良な結果母枝を得るための枝梢管理法を検討した。

研究の成果

1. 安定多収園の枝梢は、発生本数は少ないものの、長さは短い（図1）。
2. 摘葉区は無処理区に比べ、春梢発生数が多く、春梢発生枝梢率も高いが、摘葉の違いによる差はない。また、春梢の長さは摘葉区でやや短い傾向にあるが、処理区間に差はない（表1）。
3. 摘葉区は無処理区に比べ、着花総数が少なく、節当たり着花数、有葉花率に差はない（表1）。
4. 摘葉時期を12月と2月に行うと春梢発生枝梢率が高く、3月は低いが、春梢発生本数に処理区間の差はない。また、春梢の長さは処理時期が遅いほど短い（表2）。

普及上の留意点

1. 春梢発生とともに着花があることから、開花期に摘蕾・花を行い、有葉花については翌年の結果母枝として利用できる。
2. 摘葉を秋季から行うと効果的であるが、9月では秋梢が発生しやすいことから、秋梢発生がほとんどみられない10月以降実施する。

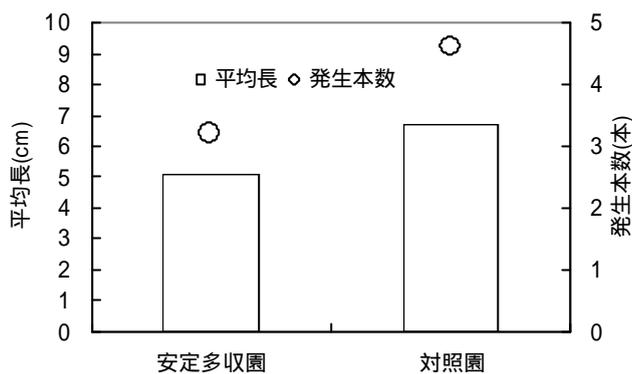


図1 安定多収園の「青島温州」の枝梢発生(2006年)

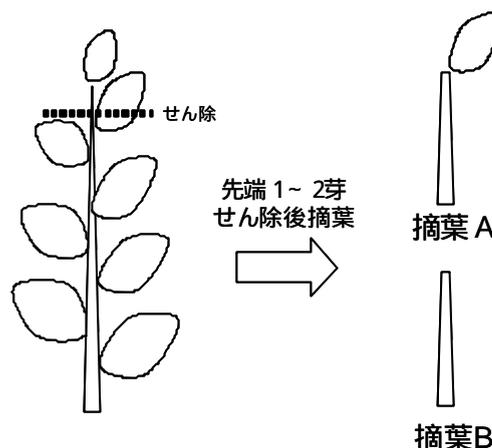


図2 摘葉方法

表1 摘葉法の違いが「青島温州」の春梢発生および着花に及ぼす影響 (2007年)

処 理 区 分	春梢発生			春梢の 長 さ cm	着 花		
	本数 本	節当り 本	枝梢率 %		総数 個	節当り 個	有葉花率 %
摘葉A	2.18a	0.37a	66.27a	11.20	4.12a	0.50	90.6
摘葉B	2.15ab	0.39a	58.48a	11.22	4.80ab	0.56	94.3
無処理	1.01b	0.23b	33.70b	12.67	5.65b	0.49	95.4

注1) tukeyの多重検定により異文字間に5%レベルで有意差あり

注2) 処理時期は2008年1月27日

注3) 摘葉は枝梢先端1~2芽せん除後、Aは先端葉1枚残し他は摘葉、Bは全葉を摘葉

注4) 節当たり春梢発生および着花は、処理枝梢の1節当たりの発生数

注5) 新梢発生枝梢率は、処理枝梢数に対する新梢発生枝梢の割合

表2 摘葉時期の違いが「青島温州」春梢発生・着花に及ぼす影響(2008年)

処 理 時 期	春梢発生			春梢の 長 さ cm
	本数 本	節当り 本	枝梢率 %	
9月18日	2.33	0.28	45.1b	21.0a
10月10日	3.83	0.34	43.3bc	15.7ab
12月20日	2.96	0.33	69.3a	15.2ab
2月 9日	2.88	0.32	58.6a	14.4b
3月19日	2.70	0.35	35.6c	14.2b

注1) tukeyの多重検定により異文字間に5%レベルで有意差あり

注2) 処理は枝梢先端1~2芽せん除後は先端葉1枚残し、他は全て除葉